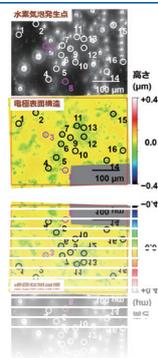


# News Letter

78号 2022年3月



バーチャル宇治キャンパス公開 2021	02
2021 年度 宇治キャンパス総合防災訓練の実施	03
Kyoto-Ajou-Zhejiang Joint Symposium on Energy Science 2021	04
最新研究トピックス	05
院生のページ	06
附属エネルギー複合機構研究センター便り	07
新任教員紹介	08
受賞	08
研究所見学会	08
各種研究費の受入れ	09
人事異動	09
外国からの来訪者	09
海外渡航	09
各種講演会の開催状況	10
研究所出版物一覧	10
研究所組織系統	11



<http://www.iae.kyoto-u.ac.jp/>

京都大学エネルギー理工学研究所

Institute of Advanced Energy, Kyoto University

# バーチャル宇治キャンパス公開 2021、 第 26 回エネルギー理工学研究所公開講演会

宇治キャンパス公開実行委員長、講演企画委員長  
片平正人

2021 年の宇治キャンパス公開は、10 月 16 日・17 日に実開催することを前提に準備を進めました。京大・宇治キャンパスの魅力をあますところなく小中高の学生さんや一般の方に伝えるには、実開催が欠かせません。また 2020 年に続いて実開催を断念した場合、事務系職員の比較的短期の職場ローテーションを考えると、実開催のノウハウの継承が途絶えてしまう危惧もあります。このような理由から実開催にぎりぎりまでこだわり、京都府との意見交換に基づいた「感染防止チェックリスト」等も作成しました。しかし、開催予定日における新型コロナウイルスの感染状況に鑑み、最終的には実開催を断念してバーチャル開催に移行することとしました。

今回は 2020 年のバーチャル開催の際に作成したプラットフォームを基に、これをさらに充実させた特設サイトを開設しました。実開催の際に好評をいただいている「公開ラボ」に関し、実験風景を映像化した新作動画を数本制作し、公開しました。宇治の 4 研究所から推薦された 8 つの研究室に関しては、研究内容を紹介する新作動画を制作・公開しました。また、宇治キャンパス全体を紹介する撮りおろし動画も公開しました。宇治キャンパスの研究者が過去に制作した動画を集めたセクションも設けました。また、宇治キャンパスの歴史を約 70 枚の写真で振り返る「宇治キャンパスの歩み」のセクションを設け、過去から現在までの紹介を行いました。さらに、宇治キャンパスのほぼ全

員となる 286 名の研究者が自身の研究について中高生を意識して紹介する研究者総覧に関しても、より充実したものとしました。特設サイトには 2,900 名の訪問者、15,000 のページビューがありました。特に、京都新聞で紹介の記事が掲載された際やスーパーサイエンスハイスクール (SSH) に案内のダイレクトメールを送付した直後に訪問者数の増加が見られました。アメリカ、ヨーロッパ諸国、南米、インド、中国、台湾等の海外 25 か国・地域からもホームページへの訪問がありました。

実開催の際に実施する予定であった各部局の講演会は、別の方法ですべて実施されました。エネルギー理工学研究所の部局講演会は、10 月 17 日にオンラインで開催されました。当研究所の長崎百伸教授が「プラズマを 1 億度に保つ 一核融合炉の実現に向けて」と題する講演を、また坂口浩司教授が「右・左とエネルギー」と題する講演を行いました。長崎教授の講演においては、実験装置のライブ紹介もなされました。両講演後の質疑応答は、企業の研究者の方からの鋭いご質問等もあり、充実したものとなりました。

今回は実開催を前提に直前まで種々の準備を進めたことから、実開催のノウハウの継承は一定程度なされたと考えられます。また、今回策定した「感染防止チェックリスト」は、今後宇治キャンパスでイベントを開催する際に役立つことと期待されます。実開催に向けたご準備を着々と進めていただき、また、バーチャル開催への移行が決まった際には新作動画の作成等に急ぎご対応いただいた教職員の皆様に御礼申し上げます。



バーチャル宇治キャンパス公開  
ホームページ



公開講演会での実験装置ライブ配信

# 2021 年度 宇治キャンパス総合防災訓練の実施

エネルギー工学研究所  
自衛消防地区隊長 片平正人

2021 年度宇治キャンパス総合防災訓練が、2021 年 10 月 27 日（水）午後 3 時からの 1 時間ほどを利用し、宇治市東消防署の協力を得て実施されました。この訓練は、本学の危機管理基本計画に則り定められた総合防災訓練スケジュール概要（研究室・部局消防（地区）隊）に基づき実施されるもので、災害発生時の被害を最小限にとどめるための訓練とされています。今年度は情報伝達に特化した訓練とし、部局においての一時集合場所への避難、各研究室及び分隊での避難状況集計は実施せず、自衛消防地区隊長が被災状況集計（部局消防分隊集計用）を本部へ持って行くところからの訓練としました。

訓練内容は、構内災害対策本部や部局対策室設置場所の確認および設営、被災状況等の情報伝達です。

今回は新型コロナウイルスの影響で、初動時構内災害対策本部、および初動時部局対策室を宇治おうばくプラザの屋外に設置しました。その後、はしご車による本館 N 棟 4 階からの救出訓練、および消火器の使用訓練が実施されました。

今回の実施訓練において、宇治東消防署からの講評がありました。対策本部の立ち上げまで 14 分かかったため、今後の訓練、および実災害時には、本部長は帽子やベストの色をほかの人とは別の色にするなど、対策本部の誰がどの役割かを明確にし、時間も短縮するようご指導がありました。また、大きな災害の発生時には、消防署員の人数が限られていることもあり、「自助・共助・公助」の内の「共助」について強くお願いがありました。実災害に備え、訓練継続の重要性についてもお話がありました。

本訓練が被害の拡大防止に役立つことを期待するとともに、所員や学生の皆様におかれましては「宇治キャンパス危機管理計画」にもう一度目を通され、災害に備えていただきますようお願い申し上げます。



構内災害対策本部の様子



はしご車による救出訓練



消火器使用訓練の様子



森井災害対策本部長の挨拶

# Kyoto-Ajou-Zhejiang Joint Symposium on Energy Science 2021

エネルギー生成研究部門 量子放射エネルギー研究分野  
教授 大垣英明

The 2021 Ajou-Kyoto-Zhejiang Joint Symposium on Energy Science が 2021 年 11 月 29 日（月）にオンラインで開催されました。本シンポジウムは日本の京都大学（大学院エネルギー科学研究科、エネルギー理工学研究所）、韓国の Ajou 大学（エネルギーシステム研究科）、中国の浙江大学（エネルギー工学研究科）の三つの大学間を順番で開催する学生向けのシンポジウムであり、今回が6回目の開催となりました。

今年は韓国 Ajou 大学エネルギーシステム研究科の主催で行われました。新型コロナウイルスの世界的大流行の影響を受け、昨年度のシンポジウムに続き今年もオンラインでの開催となりました。参加者は三大学の教員と学生を中心に 67 名に達し、盛会な国際シンポジウムとなりました。今回は例年とは異なり、学生の発表だけではなく、各大学の若手教員の発表も多数実施されました。

シンポジウムでは Ajou 大学エネルギーシステム研究科研究科長 Jang Hye-young 教授、京都大学大学院エネルギー科学研究科 石原慶一教授、浙江大学エネルギー工学研究科研究科長 Gao Xiang 教授の Opening Speech で幕を開けました。General Session と Young Scientist Session の 2 種類があり、京都大学エネルギー科学研究科、エネルギー理工学研究所からは General Session で 6 件、Young Scientist Session で 8 件の発表がありました。発表のテーマはエネルギーに関与するナノテクノロジー、材料、生物化学、光・電気化学、無機化学、加速器やレーザー、核融合、電力システムや社会経済性など、様々な分野のトピックが広がっています。GCOE グループ研究から「The Way for Carbon Neutral Transition to Advance Renewable Energy Supply in Specific Japanese Manufacturing Sectors」と、「Post COVID-19 Recovery Towards Carbon Neutral Society in Japan: Analysis on Transportation Sector」というタイトルで 2 件の発表がありました。（図 2）最後に、京都大学大学院エネルギー科学研究科研究科長 平藤哲司教授、浙江大学エネルギー工学研究科研究副科長 Huang Qunxing 教授の Closing Speech で幕を閉じました。今回のシンポジウムは、京都大学から浙江大学、Ajou 大学との国際交流の推進はもちろん、三大学の学生にとってお互いの研究分野を知る良い機会になりました。また新型コロナの影響により海外での研究発表の機会がほとんどない中で、今回のシンポジウムが初めての国際的な英語発表の場となった学生も多く、この経験が今後に活かされることを期待しています。

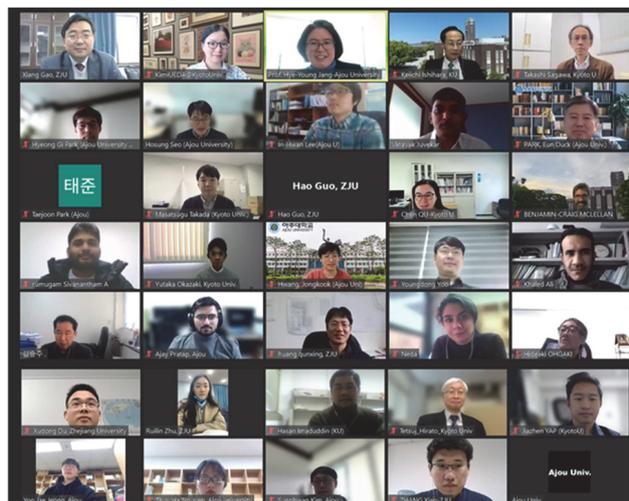


図 1. 集合写真

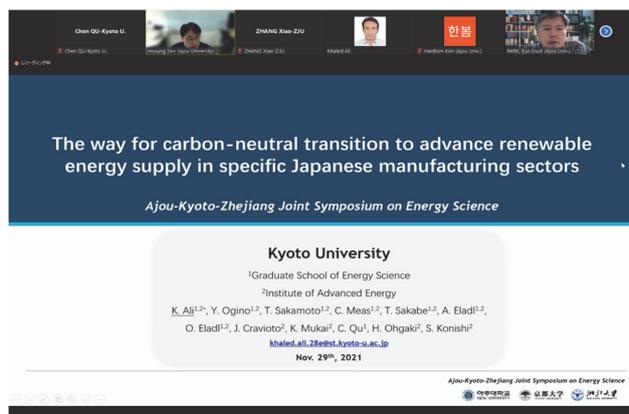


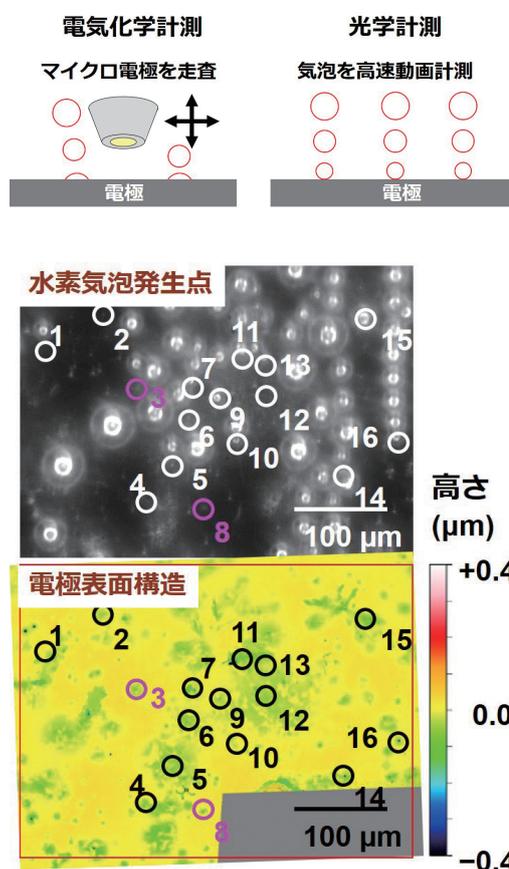
図 2. GCOE グループ研究発表

エネルギー機能変換研究部門 レーザー科学研究分野  
特定助教 安東航太・准教授 中嶋 隆

2017年12月に政府（再生可能エネルギー・水素等関係閣僚会議）が水素基本戦略<sup>1</sup>を決定したことを受け、再生可能エネルギーの余剰電力を水素ガスに転換し利用するシステム（Power to Gas）の開発が国策の一つとして位置づけられた。その中でもアルカリ水電解は水素製造の有力な手段と考えられている。我々は、電極表面構造と水素気泡の生成点および排出効率の相関を明らかにすること、さらには電極表面構造の最適化を目指し、電極表面近傍における電気化学過程の光学計測を進めている。

### 水素気泡の光学計測による局所水素溶存濃度の評価

電極表面構造と水素気泡生成および排出の相関関係を調べるためには局所分析が必須であるが、電気化学計測を用いた場合には一度にしか計測できない上、水素製造には不可避の水素気泡の存在が計測の邪魔をする。一方、水素気泡を光学計測すると一度に広範囲の計測ができる。このように、光学計測には明らかな優位性がある。ただし、電極近傍や電極上で光学計測を行うにはこれらからの光散乱が計測の妨げとなるため、不要な散乱光を極限にまで抑制する工夫が必要である。試行錯誤の結果、我々は、電極近傍および電極上の異なる位置に存在する複数個の水素気泡を時間分解能1 ms、空間分解能1 μmで高速動画計測することにより、局所水素溶存濃度を広範囲にわたって同時に評価する手法を開発した<sup>2,3</sup>。また、電極上の水素気泡発生点とその表面構造の対応づけもできた。



1. [https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/saisei\\_energy/pdf/hydrogen\\_basic\\_strategy.pdf](https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/saisei_energy/pdf/hydrogen_basic_strategy.pdf)
2. Ando, Uchimoto, Nakajima, Chem. Commun. **56**, 14483 (2020).
3. Ando, Uchimoto, Nakajima, J. Phys. Chem. C **125**, 38, 20952 (2021).

エネルギー利用過程研究部門 生物機能化学研究分野  
博士後期課程 3 回生 小西宏明

この記事を書くにあたって博士課程に進学してからのことを思い返してみたが、特筆すべきことのない、変わり映えに乏しい日々であった。このように表現すると悪く捉えられてしまうだろうが、しかしながらそれこそが恵まれた生活であったことの証左であろうと思われる。

このように考える理由の1つが、修士2年時の事故の経験だ。それ自体はよくある自転車での自損事故だが当たりどころが悪く、頸椎を骨折する怪我を負ってしまった。一方で運が良いことに、偶然居合わせた人に素早く救急車を手配していただいたこと、骨折した部分も神経などに影響がないところであったことから、程なくして完治してそれまで同様に過ごしている。もう少し打ち所が悪ければ、一生寝たきり、もしくは帰らぬ人となっていただろう。そう考えると、流行り病にも罹らず健やかに暮らしていることがどれだけ幸せなことだろうか。

もう1つの理由は、研究室の環境だ。博士課程に進学する際に様々な奨学金制度や日本学術振興会の特別研究員制度へ申し込みした時に分かったことだが、自分の研究を周りに説明すること、そしてそれでお金をいただくことは非常に難しい。先生方の苦心の末に、我々学生は多くの機器や試薬を使って不自由なく実験を進めることができる。また、優秀な先生や気が置けない研究室のメンバーと時にと議論や研究に励み、時に歓談する。そんな関係が構築できる人と出会って、続いていることが非常にありがたいことだと思う。

健康に気をつかい、研究室の周囲の人たちに助けられ大学院生としての日常を謳歌できている。平穏無事な日々感謝しつつ研究を進めていきたい。



研究室の機器（左）や貸与された PC（右）の一部。非常に恵まれた環境で研究活動が送れている。

## 附属エネルギー複合機構研究センター便り

### ● 2021 年度センター共同研究成果報告会のご案内 ●

4月8日（金）14時より

エネルギー理工学研究所北4号棟4階 大会議室（予定）

### ● 2022 年度センター共同研究・萌芽研究について ●

来年度も共同研究・萌芽研究を推進する予定です。応募要領は別途ご案内します。

### ● センター談話会 ●

今年度の談話会は、センター共同研究・萌芽研究の課題代表者の各先生に、研究計画や進捗状況を談話会の枠でお話いただきました。対面とオンラインのハイブリット方式での開催もあり、久々に会場での意見交換等が盛んに行われました。

談話会は所内連携研究、ならびに萌芽的研究の在り方を考える機会としていきたいと思えます。

### お問い合わせ先

京都大学エネルギー理工学研究所附属エネルギー複合機構研究センター

センター管理室

TEL：0774-38-3530



## 新任教員紹介

エネルギー生成研究部門 量子放射エネルギー研究分野

特定准教授 金城良太



2022年1月1日付けで量子放射エネルギー研究分野に特定准教授として着任させていただくこととなりました。専門は加速器ビーム物理学、超伝導応用工学です。エネルギー理工学研究所において高温超伝導アンジュレータによる世界初の実用強度磁場生成によって学位を取得後、理化学研究所 SPring-8/SACLA において新型真空封止アンジュレータの開発や自由電子レーザーのフルコヒーレント化に向けたシミュレーション等に従事して参りました。現在は高温超伝導アンジュレータの実用化に向けて、スイスポールシェラー研究所、英国ケンブリッジ大学、米国フェルミ国立加速器研究所との共同プロジェクトを進めております。超伝導アンジュレータは放射光リングや自由電子レーザーなどの大型装置の性能を各段に向上させることによって省資源化・省エネ化に資するとともに、それ自体が省エネルギーデバイス応用としての意味を持ちます。特に高温超伝導技術を大きな熱入力・真空・放射線の環境下で超精密、かつ安定した磁場生成に用いる実用例として、他の応用への波及効果が期待できます。これらの研究開発を通してエネルギー理工学研究所の理念である人類文明のエネルギー問題の解決に貢献する所存です。ご指導・ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

## 受賞

### 第18回大澤奨励賞

篠北啓介（エネルギー機能変換研究部門 ナノ光科学研究分野 助教）

「Novel excitonic features of moiré exciton in twisted van der Waals heterostructures」

授与機関：フラーレン・ナノチューブ・グラフェン学会

### 2022年度電気化学会進歩賞（佐野賞）

山本貴之（エネルギー利用過程研究部門 複合化学過程研究分野 助教）

「イオン液体および種々の電荷担体を用いた次世代型蓄電池に関する研究」

授与機関：電気化学会

### 日本物理学会学生優秀発表賞（領域2）

Adulsiriswad Panith（エネルギー生成研究部門 複合系プラズマ研究分野 博士後期課程3回生）

「Study of the Interaction between Peripheral Energetic Particle Mode and Energetic Particles in Heliotron J with MEGA, a Hybrid MHD Simulation with Free Boundary Condition」

授与機関：日本物理学会

### 関西電気化学奨励賞

茂木 渉（エネルギー利用過程研究部門 複合化学過程研究分野 修士課程2回生）

「KF-KCl 熔融塩中における液体 Zn 電極を用いた結晶性 Si 電析」

授与機関：電気化学会関西支部

### 第61回フラーレン・ナノチューブ・グラフェン総合シンポジウム 若手奨励賞 /Nanoscale Horizons 賞

小林幹旺（エネルギー機能変換研究部門 ナノ光科学研究分野 修士課程2回生）

「Optical properties of transition metal dichalcogenides with microspherical optical cavity」

授与機関：フラーレン・ナノチューブ・グラフェン学会

## 研究所見学会

### 三重県立上野高等学校

2021年11月16日（火）に44名来所。

森井孝所長から研究所概要説明を受けたのち、研究所基幹装置である Heliotron J、DuET、自由電子レーザー KU-FEL、NMR 装置群を見学、その後、大学院生との懇談会を行いました。

### 京都大学宇治地区三研究所技術部

2021年11月25日（木）に20名来所。

南貴司准教授と門信一郎准教授から Heliotron J 装置の概要説明を受けたのち、装置を見学しました。

## 各種研究費の受入れ

### 共同研究

研究代表者	研究題目	申請者	研究期間
小西哲之	高速応答原型炉燃料サイクルとプロトンポンプフロントエンド	核融合科学研究所	2021.12. 6 ～2022. 2.28
大垣英明	次世代アンジュレータのための高温超伝導体の評価研究	理化学研究所	2022. 1. 1 ～2022. 3.31
坂口浩司	ナノ構造炭素材料の構造解析	(株)KRI	2019. 6. 1 ～2023. 3.31

### 受託研究

研究代表者	研究題目	委託者	研究期間
小西哲之	マイクロ波を用いたバイオマスガス化技術開発	京都フュージョニアリング(株)	2021. 7.20 ～2022. 1.31

### 奨学寄附金

研究代表者	研究題目	寄附者
原富次郎	環境微生物の探索と機能解明の研究のため	東洋ガラス(株)
原富次郎	環境微生物の探索と機能解明の研究のため	(株)竹中工務店
長崎百伸	核融合研究に対する研究助成	(株)日立製作所

## 人事異動

発令年月日 または 受入期間	氏名	異動 内容	所属・身分	旧(現)所属・職名等
2021.12. 1	藪内聖皓	再任	エネルギー機能変換研究部門 エネルギー基盤材料研究分野 助教	エネルギー機能変換研究部門 エネルギー基盤材料研究分野 助教
2022. 1. 1	金城良太	採用	エネルギー生成研究部門 量子放射エネルギー研究分野 特定准教授	理化学研究所放射光科学研究センター 次世代X線レーザー研究グループ 研究員

## 外国からの来訪者

来訪年月日	氏名	所属機関名・職名・所属機関国籍
2021.11. 2 ～2021.11. 9	山本琢也	University of California Santa Barbara・Professional Researcher・アメリカ

## 海外渡航

氏名	渡航目的	目的国	渡航期間	備考
CRAVIOTO CABALLERO JORDI	エネルギーサービスの調査、データ収集	メキシコ	2021.11.26 ～2021.12.11	運営費・科研費
大垣英明	JASTIP 共同研究推進打合せ	タイ	2021.12.24 ～2021.12.29	受託研究費
金城良太	次世代アンジュレータのための高温超伝導体の評価研究	スイス	2022. 1.18 ～2022. 3.31	私費

## 各種講演会の開催状況

### エネルギー理工学研究所講演会（共催）

日 時：2021年11月2日（火） 10：00～12：00

開催形式：オンライン

題 目：アルフェン固有モードと乱流の相互作用

講演者：石澤明宏（京都大学大学院エネルギー科学研究科・准教授）

共 催：日本学術振興会 研究拠点形成事業

磁場の多様性が拓く超高温プラズマダイナミクスと構造形成の国際研究拠点形成

### エネルギー複合機構研究センター第3回談話会

日 時：2021年11月10日（水） 15：00～16：00

場 所：エネルギー理工学研究所 セミナー室1（本館 W-503E）

開催形式：対面とオンラインのハイブリッド

題 目：原子層半導体における光科学の新展開

講 師：篠北啓介（京都大学エネルギー理工学研究所 エネルギー機能変換研究部門・助教）

### エネルギー複合機構研究センター第4回談話会

日 時：2021年11月30日（火） 15：00～16：00

場 所：エネルギー理工学研究所 セミナー室1（本館 W-503E）

開催形式：対面とオンラインのハイブリッド

題 目：ヒト生細胞内における核酸の構造およびダイナミクスの評価

講 師：山置佑大（京都大学エネルギー理工学研究所 エネルギー利用過程研究部門・助教）

### 特別講演会

日 時：2021年12月10日（金） 16：00～

場 所：エネルギー理工学研究所 セミナー室1（本館 W-503E）

題 目：水電解や燃料電池を活用した水素同位体分離への応用

講演者：松島永佳（京都大学エネルギー理工学研究所・客員准教授／北海道大学大学院工学研究院・准教授）

### PLADyS 国内セミナー・エネルギー理工学研究所講演会（共催）

日 時：2021年12月21日（火） 13：00～15：00

場 所：エネルギー理工学研究所 北4号棟4階大会議室

開催形式：対面とオンラインのハイブリッド

題 目：ヘリカル系における磁場配位効果と同位体効果

講演者：田中謙治（核融合科学研究所・教授）

主 催：PLADyS 日本学術振興会研究拠点形成事業

磁場の多様性が拓く超高温プラズマダイナミクスと構造形成の国際研究拠点形成

### エネルギー複合機構研究センター第5回談話会

日 時：2021年12月22日（水） 15：00～16：00

場 所：エネルギー理工学研究所 セミナー室1（本館 W-503E）

開催形式：対面とオンラインのハイブリッド

題 目：イオン液体電解質を用いた次世代型二次電池の開発

講 師：山本貴之（京都大学エネルギー理工学研究所 エネルギー利用過程研究部門・助教）

### エネルギー複合機構研究センター第6回談話会

日 時：2022年1月11日（火） 15：00～16：00

開催形式：オンライン

題 目：開いた磁力線領域を活用した新しいプラズマ物理研究アプローチの検討

講 師：大島慎介（京都大学エネルギー理工学研究所 エネルギー生成研究部門・助教）

## 研究所出版物一覧

- ▲ 京都大学エネルギー理工学研究所年報（年度末発行）
- ▲ 京都大学エネルギー理工学研究所ニュースレター（年3回発行）
- ▲ 京都大学エネルギー理工学研究所リサーチレポート（不定期発行）

**所長**  
森井 孝

**副所長**  
大垣英明

**教授会**

**補佐会**

**各種委員会**

**協議員会**

協議員

小西哲之  
森井 孝  
大垣英明  
長崎百伸  
片平正人  
坂口浩司  
松田一成  
野平俊之  
宮内雄平  
平藤哲司  
岸本泰明

**エネルギー生成研究部門**

量子放射エネルギー	原子エネルギー	プラズマエネルギー	複合系プラズマ	先進エネルギー評価
教授 大垣英明 准教授 紀井俊輝 助教 全 炳俊 特定准教授 金城良太 特定助教 CRAVIOTO CABALLERO, Jordi 事務補佐員 長家友美子	教授 小西哲之 講師 八木重郎 助教 向井啓祐 事務補佐員 和田裕子	教授 長崎百伸 准教授 小林進二 事務補佐員 中尾真弓	教授 長崎百伸(兼) 准教授 南 貴司 准教授 門信一郎 助教 大島慎介	

**エネルギー機能変換研究部門**

機能物性工学	レーザー科学	エネルギー基盤材料	ナノ光科学	クリーンエネルギー変換 (客員研究分野)
教授 宮内雄平 助教 西原大志 特定研究員 高倉 章 事務補佐員 北川千賀子	教授 松田一成(兼) 准教授 中嶋 隆 特定助教 安東航太	教授 松田一成(兼) 准教授 森下和功 助教 藪内聖皓 事務補佐員 石井令乃奈 事務補佐員 和田裕子	教授 松田一成 助教 篠北啓介 技術補佐員 佐々木亜幸 事務補佐員 橋本香織	客員教授 長汐晃輔 客員准教授 松島永佳

**エネルギー利用過程研究部門**

複合化学過程	分子ナノ工学	生物機能化学	エネルギー構造生命科学
教授 野平俊之 准教授 小瀧 努 特定准教授 川口健次 助教 山本貴之 事務補佐員 高取裕美	教授 坂口浩司 助教 小島崇寛 助教 信末俊平	教授 森井 孝 准教授 中田栄司 研究員 LIN, Peng 技術補佐員 ZHANG, Zhengxiao 派遣職員 梶川幸恵	教授 片平正人 准教授 永田 崇 助教 山置佑大 事務補佐員 村上直美

**附属エネルギー複合機構研究センター**

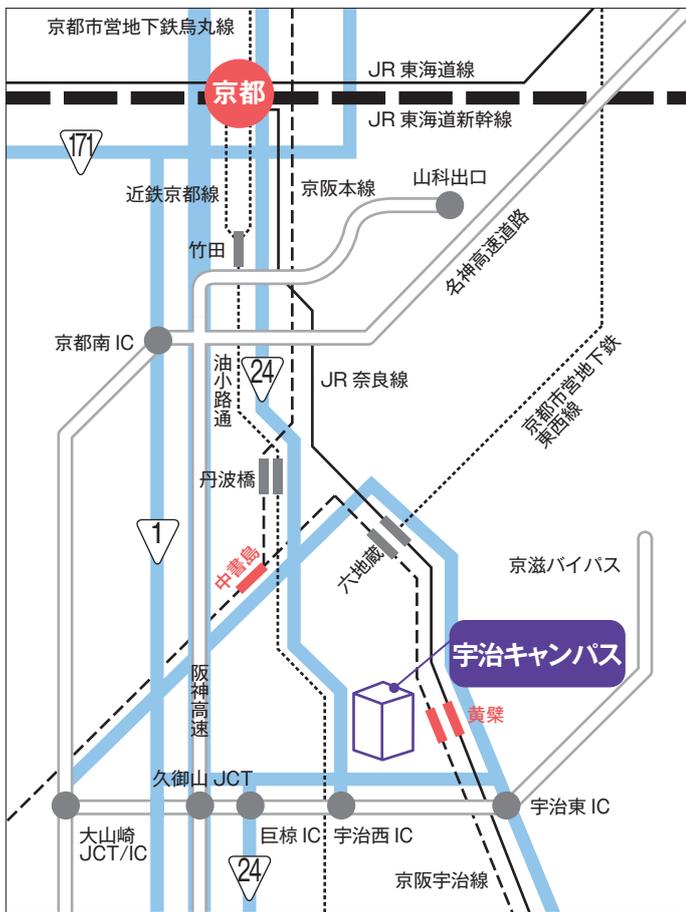
センター長 片平正人 技術専門職員 高塚真理 技術専門職員 東使 潔	技術専門職員 才村正幸 技術専門職員 坂本欣三 技術職員 大村公正	技術職員(再) 矢口啓二 技術職員(再) 橋富興宣 技術職員(再) 千住 徹	技術職員(再) 芝野匡志 技術補佐員 中貝久美子 事務補佐員 隈部公子	事務補佐員 渡邊しおり 労務補佐員 杉村真里
--	---	--	---	---------------------------

自己組織化科学	高温プラズマ機器学	広帯域エネルギー 理工学開拓	環境微生物学 (寄附部門)	バイオマスプロダクトツリー 産学共同研究部門
教授 森井 孝(兼) 講師 ARIVAZHAGAN, Rajendran	教授 長崎百伸(兼)	教授 野平俊之(兼) 助教 法川勇太郎	特定教授 原富次郎 特定准教授 高塚由美子 技術補佐員 近藤美弥 技術補佐員 川端千翔	教授 片平正人(兼)

**資料室** 特定職員 滝本佳子  
事務補佐員 高橋友子

**共同利用・共同研究推進室** 研究支援推進員 下垣直美  
研究支援推進員 ハンフリー菜々

**宇治地区事務部** **エネルギー理工学研究所担当事務室** 平田美穂(事務長) 下田理恵(主任)  
澤田尚美(事務補佐員) 松江絵里子(事務補佐員)



## 京都大学エネルギー理工学研究所 News Letter

2022年3月31日発行

編集兼発行人 京都大学エネルギー理工学研究所 所長 森井 孝  
 〒611-0011 京都府宇治市五ヶ庄  
**TEL 0774-38-3400** FAX 0774-38-3411  
<http://www.iae.kyoto-u.ac.jp/>